論　文

本居宣長記念館所蔵・小津桂窓宛書簡（四）

菱岡憲司

本居宣長記念館が所蔵する小津桂窓（久足）宛書簡を、「本居宣長記念館所蔵・小津桂窓宛書簡（一）～（三）」として、『有明工業高等専門学校紀要』（五〇～五二号、二〇一四・一〇～二〇一六・一〇）に翻刻紹介してきた。本稿はその連載を継ぐものである。発表媒体が代わるため、小津桂窓および差出人の野呂松廬（隆訓）について、改めて以下に示す。

小津桂窓。幼名安吉、名久足、通称新蔵、のち与右衛門、号桂窓、別号に石竹園・蔦軒・雑学庵など、法号桂窓浄夢居士。文化元年（一八〇四）八月十二日生、安政五年（一八五八）十一月十三日没、五十五歳。伊勢松坂の人。江戸店持ちの豪商、干鰯問屋湯浅屋の六代目。松坂西ノ荘に本宅があり、坂内川沿いの立地から「土手新」（土手の新蔵）と称される。墓所は松坂養泉寺。詳細は拙著『小津久足の文事』（ぺりかん社、二〇一六）を参照されたい。

野呂松廬。漢学者。寛政三年（一七九一）生、天保十四年（一八四三）六月二十三日没、五十三歳。名隆訓、字式夫・翼卿、通称九介、号松廬。別号に槃澗・盤谷・九鶴山樵など。父以耕は和歌山藩士、叔父介石は和歌山藩絵師、子の深処・静処はともに和歌山藩儒。藩校学習館の督学山本東籬に学ぶ。一時、紀州湯浅住居し、晩年、京都に塾を開く。墓は京都金戒光明寺。著作に『松廬先生遺稿』（三巻三冊、弘化三年刊）があり、『天保三十六家絶句』にも二十一首選ばれる。

凡例も再掲する。なお、前稿までと翻刻方針が異なる部分があるが、以後はこの凡例にしたがう。

凡　例

一、漢字は通行の字体を用いた。
一、適宜、句読点・濁点を加えた。
一、「ゝ」「〳〵」は残したが、「�″」は「々」に改めた。
一、行移りは基本的に無視したが、日付・差出人・宛名等は改行した。
一、尚々書は原簡における位置に関わらず、本文の後に記した。
一、判読不能の箇所は、およその文字数を□印にて示し、判読できない理由、また推定できる文字を（　）内に傍書した。
一、書簡番号は、現所蔵機関である本居宣長記念館により付された番号を（　）内に示した。

4　野呂隆訓（一―四）

（端裏）丑正月二日

新禧同慶、目出度申納候。御地も揃御越歳之条、欣抃之至奉敬賀候。次ニ弊寓依旧無事加馬齢候間、乍憚御遐念被下間敷候。先者年始御祝詞申上度、如斯御座候。余者期永陽候。恐惶謹言

正月十五日　　野呂隆訓（花押）

小津新蔵様

追啓

一心締交毎々御懇情思召被下、千万辱銘肝仕候。然候処、賤人事も十四年前、玦然旧里を発去候而、当所ニ潜居仕候処、不思之外ニ連年之饑荒ニ相遇候而、尤節約を相加候得共、僻陬之儀ニも御座候得者、出入不相償、年々費用も多ク、聊先人之儲畜（蓄）ニ而相補候処、年を累候中ニ、多分之虚耗ニ相成候。今一二年も当所罷在候而者、家従皆々餓死ニ相及申候勢ニ相成候。唯今を以見候得者、猶微々之余財も御座候得者、無拠当所引払□（ヤブレ）而、†長男ハ兼而、他国ニ修行仕申度之所願ニ御座候故、勝手ニ任セ何方へも罷出候様、賤人儀者、先漫遊老書生ト相成候而、三四年天下を遊覧可仕候哉。或ハ何□（ヤブレ）之地にても旅寓を定メ、†二男静吉ト申者ト、互ニ炊爨を仕候而、□（ムシ）熟之著述を相正し、謄書も可仕候哉。何レ到処を埋骨之地ト相定、不遠当所を立去り候条、議定仕候。右之通仕候得者、当所懇意之人ニ世話を掛ケ不申、先ハ当地にて、清白生ト相成り候。不然□（ヤブレ）追々ニハ借財等も出来候而者、十年来世話ニ相成候所ニ、又々世話を相遺し而者、心中も不易候。何分父子離散之形ハ、甚見苦□（ヤブレ）候得者、生計之拙、不得已候故ニ□（ヤブレ）旧年申上置候史論ハ、寥々冊子相成シ、尤も大方之観ニ可供候処ニ而者無御座候得共、知己之一言ニ相感じ、途中より清書出来仕候次第、差出候間、没板若用ニ相立候者、其侭宮崎文庫へ、可相成候者御納メ被下候者、死而不朽之喜、辱奉存候。今一度得拝晤候而、心中万々申上、祈天縁候余者、自途中何レよりにても可申上候。

隆訓拝白

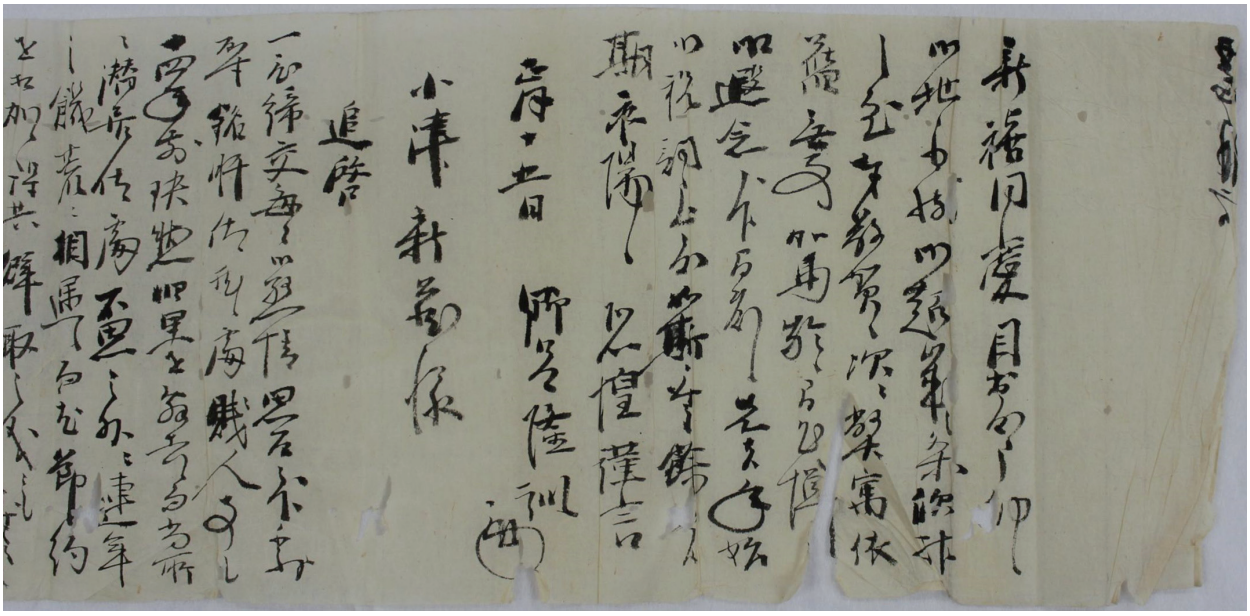
†丑正月二日　天保十二年（一八四一）一月二日。「丑正月廿三日」の端裏書のある書簡一-一は、摩島松南死去（天保十年）への言及があり、野呂松盧の没した天保十四年までの丑年は天保十二年である。書簡一-一と転居の話題が重なることから、本書簡も天保十二年と推定される。「本居宣長記念館所蔵・小津桂窓宛書簡（一）」（前掲）参照。

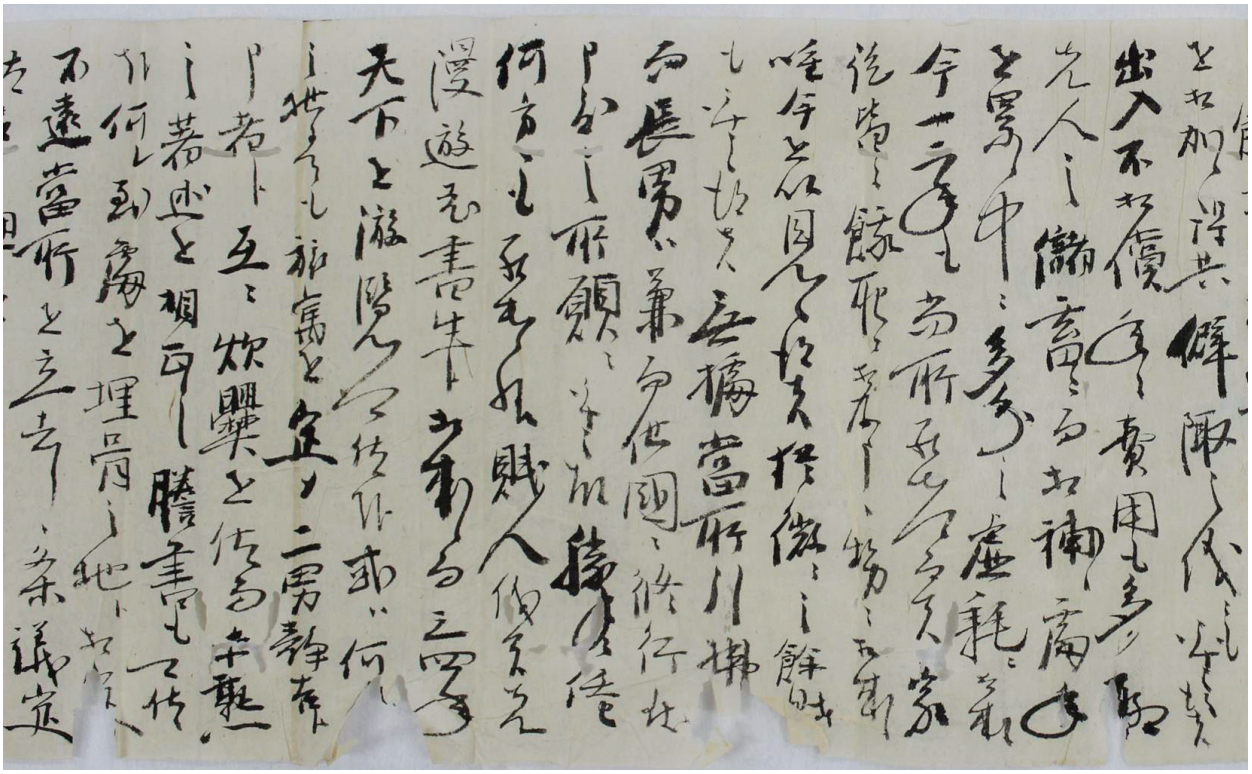
†長男　野呂深処。和歌山藩儒。松盧の長男。名公鱗、通称八十一郎、字龍章、号深処。

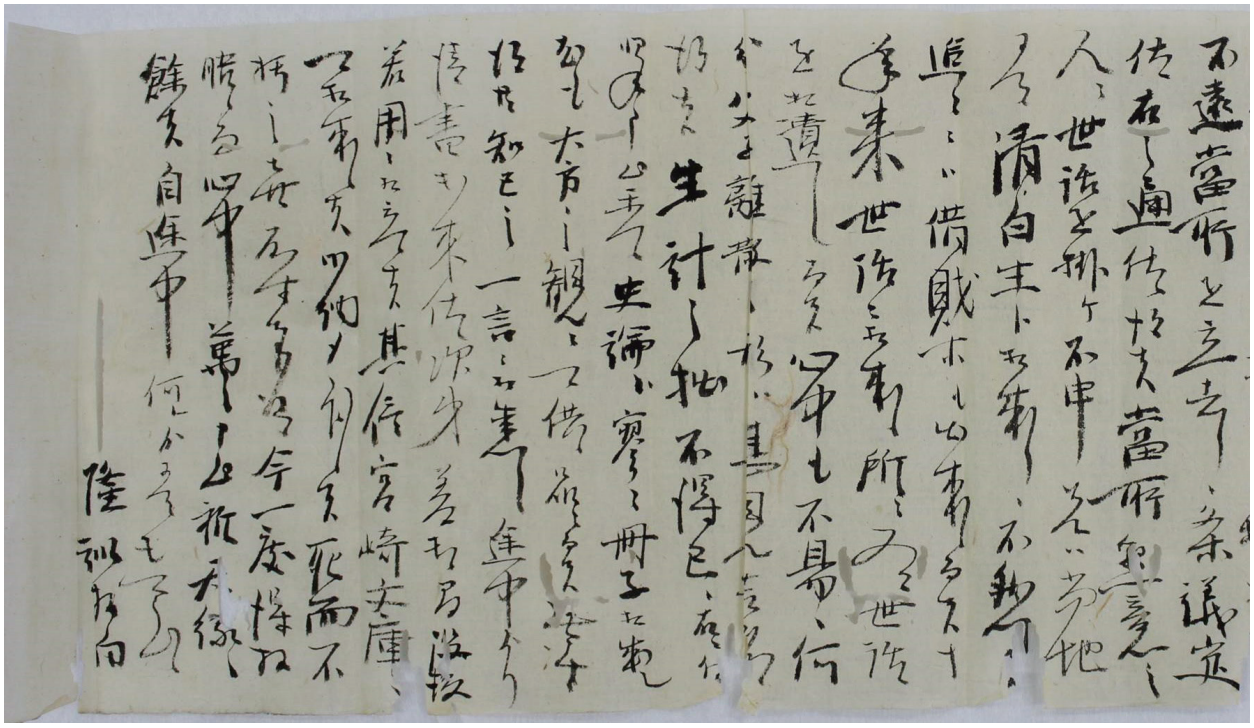
†二男清吉　野呂静処。和歌山藩儒。松盧の次男。文久二年（一八六二）没。名公翊、通称静二郎・静吉郎、字鶴章、号静処。

本稿はＪＳＰＳ科研費15k16692による研究成果の一部である。

（日本文化論）







Reprinting Notes of letter to Ozu Keiso owned by Motori Norinaga Memorial Hall. No.4

Kenji HISHIOKA(Japanese culture)

Reprinting Notes of letter to Ozu Keiso(A merchant of Edo period) owned by Motori Norinaga Memorial Hall. No.4